JMFI NEWS

【ジェイエムエフアイ・ニュース】

JAPAN Material Flow Institute

No.27（2017年11月号）

発行●一般社団法人 日本マテリアルフロー研究センター
〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-47-6 202
TEL●03-3988-2671 ／ FAX●03-3980-6588
URL●https://ryuken-jmfi.or.jp

国交省・英課長を迎えた特別講演会の模様

研究会，特別講演会，理事会…新役員体制で第2期活動を力強くスタート

JMFIは去る8月25日に第2回総会を行い，第2期の活動をスタートしました。これを受け，9月から10月にかけては通常の研究会に加え，研究企画会議，特別講演会，第6回理事会と矢継ぎ早に諸活動を展開。新会員を迎えて会員企業は81社となり，同時に事務局人事を一新しました。その概要をご報告します。

研究企画委員会

10月10日，JMFI大会議室にて2017年度第２回研究企画委員会を開催しました。同委員会は研究会活動の内容充実と情報共有を目的に，旧リーダー会を発展させて設置したもの。メンバーは研究会の各リーダーと特別会員企業，JMFI役員・事務局で構成されます。

今回は計17名が参加し，①各リーダーより今日までの活動報告，②上記に対する質疑応答，③リーダー，特別会員から今後の研究企画に対する提案事項ほか意見交換，の式次第で議事を進行しました。今回発表された研究の活動状況は次の通りです。

＊

❶IoT・リアルタイム見える化によるシェアリング・ロジスティクス研究会

サプライチェーンにおけるシェアリング・ロジスティクスのプラットフォーム構築のコンセプトのもと，全体グループ会議と３つの研究分科会を開催。加えて同日，各分科会の参加メンバーが集う全体会議を開催し情報共有を実施。

❷ドライバーの労働環境改善研究会

トータルで労働環境の改善検討を進めることを確認。日用雑貨に加え加工食品などに対象を拡大し，今後は発荷主，着荷主，物流と広範囲のメンバー参加を得て，ドライバーの労働環境悪化の最大の要因の１つである待機時間削減のため，バース予約システム等の共通プラットフォームの形成など，実際の運送改善の研究を行う計画。

❸IoTによる物流機材管理研究会

荷主企業，物流サービス企業ほかの参加を得て，物流機材と商品情報を紐付けるためRFIDをどう使っていくのか，現場検証など研究を推進。来年の５月までに実証研究のロードマップを作成する予定。

❹物流現場における省エネルギー施策研究会

電機，精密，機械商社，物流企業などが参加。メンバーの中でも物流現場については，エネルギーの使用に関する状況が把握しきれていない。実態把握のため，次回は工場見学を予定。

❺対災害強靭化研究会

活動状況を報告。目標としては「緊急支援物資のラストワンマイル」のハンドブックの作成を目指し，ハンドブックを基にした研修会の実施と研究を予定。

❻マテリアルハンドリング研究会

マテハンの仕事に関わる方が使える，マテハンの実務的なハンドブック，実務辞典の作成を目指す。まとめ方の検討や参加メンバーの呼びかけを行っている。日本物流システム機器協会（JIMH）の会員企業の現役技術者に作成協力を依頼予定。完成まで１年半～２年程度をかける計画。

❼AI／ビッグデータ／ロボティクス

AIについては勉強会開催のためのメンバーをリクルート中で，早期のWG開催を目指す。ロボット研究にからめ，今年の９月に土木学会に参加しロボット・物流の分科会にて医療の物流に関する在庫の最適化テーマで論文を発表したこと，まとめたビッグデータの分析をAI研究に活かす予定と報告。

❽在庫指標研究会（仮）

在庫適正化の要望に応えるため新たに立ち上げ。研究を行い，セミナー等JMFIの活性化に繋げたい。テストの意味も含めて６回を目途に活動

■ JMFI平成30年新年賀詞交歓会の開催概要

日　時	平成30年1月25日㈭	
会　場	如水会館（東京都千代田区一ッ橋2-1-1）	
式次第	12:20～	新春講演会「AI／IoT時代の物流システム・新春展望」 ㈱流通研究社 代表取締役社長 菊田一郎
	13:00～	新年賀詞交換会

（＊同日12:00より，第7回理事会を開催します）

予定。現在，コアメンバーを募集中。

⇒研究会の詳しい内容と入会・参加問い合わせについてはJMFIホームページをご覧ください。

第6回理事会――新専務理事・事務局長が就任，会員81社に

10月20日，JMFI大会議室で平成29年度第6回理事会を開催しました。今回の議題は，①専務理事の選定，②事務局長の承認，③入会企業の承認，④新年賀詞交歓会開催の承認の4件。専務理事，事務局長の選定・承認は小池専務理事 事務局長の退任に伴うもので，新専務理事には当センター理事の小林史男氏（元㈱ダイフク副社長）を，新事務局長には事務局の山田善紀氏（元 郵船航空〔つくば〕㈱社長など）をそれぞれ満場一致で選定・承認し，同日付けで就任しました。

また新会員として①グッドマンジャパン㈱（特別会員），②味の素㈱，③㈱ランドスケイプ，④㈱ナンシン，⑤東芝テック㈱，⑥京濱港運㈱，⑦㈱エヌ・ティ・ティ・ロジスコ（以上一般会員）の7社の入会を承認。これで会員企業数は81社となりました。

なお新年賀詞交換会開催は上記のように承認されました。会員各位のご参加をお待ちしております。

最後に①「アジア・シームレス物流フォーラム2018 in NAGOYA」の構想，②JMFIホームページリニューアルの報告がありました。これについては次号の本ニュースでご紹介します。

特別講演会――国交省・英物流政策課長を迎えて

10月20日，JMFI大会議室にて国土交通省 総合政策局 物流政策課の英 弘道課長を講師にお迎えし，特別講演会を開催，会員ほか約30名が参加しました。

初めにJMFI小林史男専務理事が挨拶に立ち，英氏のプロフィールを紹介。同氏は平成5年に運輸省（当時）に入省，同28年に国交省総合政策局海洋政策課課長，本年6月に物流政策課課長に就任，7月の総合物流施策大綱の閣議決定を担当しています。

英課長は「新たな総合物流施策大綱について」と題し，以下の内容について具体的に解説しました。

◎総合物流施策大綱は，1997年に5年計画として初めて閣議決定されて以来，過去5回にわたって策定。今回で6回目となる。

◎新たな物流施策大綱は，これからの物流に対する新しいニーズに応え，我が国の経済成長と国民生活を持続的に支える「強い物流」を実現していくために，次の6つの柱を立てて，取り組みを推進する。

【繋がる】①サプライチェーン全体の効率化・価値創造に資するとともにそれ自体が高い付加価値を生み出す物流への変革～競争から共創へ～

【見える】②物流の透明化・効率化とそれを通じた働き方改革の実現

【支える】③ストック効果発現等のインフラの機能強化による効率的な物流の実現～ハードインフラ・ソフトインフラ一体となった社会インフラとしての機能向上～

【備える】④災害等のリスク・地球環境問題に対応するサステイナブルな物流の構築

【革命的に変化する】⑤新技術（IoT，BD，AI等）の活用による“物流革命”

【育てる】⑥人材の確保・育成，物流への理解を深めるための国民への啓発活動等

◎この四半世紀で貨物自動車輸送総トン数は3割以上減少する半面，宅配便の取扱個数は約3.57倍に拡大するなど，物流が大きく変化し，ECの発展などに伴い機能範囲が拡大している。

◎また労働人口縮小の中で，物流業界の労働力不足が顕在化，様々な課題が生まれている。これを乗り越えるためには第4次産業革命に連動する技術のブレイクスルーが不可欠となっている。

＊

続いて英氏は，6つの柱に対する幅広い分野での施策例を紹介しました。会場からの質問に答え，「企業の枠を超えた連携・協働による物流効率化が大きな施策方針であり，同じテーマを掲げるJMFIの活動には期待したい」とも言及。講演会は小林専務理事のお礼の挨拶と拍手で盛会裏に終了しました。 MF

講演する国交省・英弘道課長

挨拶する小林史男専務理事，右は山田義紀事務局長